

文=永田知子
 Take by Tomoko Nagata
 写真=竹内康綱
 Photo by Yasunori Takahashi



豆田町 ひな散歩

日田では豆田町を中心に、今年で36回目となる「天領日田おひなまつり」が開かれる(2月15日(金)~3月31日(日))。江戸の華やきを残す豆田町で、おひなさまを巡る1日を。

「天領日田」の春の賑わいある江戸時代のおひなまつり。日田町では毎年ひな人形を展示している。

天領日田の豆田町で江戸の美に出会う

春の訪れを感じる頃、九州各地で始まるひなまつり。ひな飾りには地域の歴史や文化が反映され、開催期間も約1〜2カ月と長くそれぞれ異なるため、休日に行き先を変えて見比べながら楽しめる。

ひなまつりは平安時代、上流階

級の少女たちの「ひいな遊び」に始まり、女の子の無病息災を願う桃の節句となつて、江戸時代に全国の庶民にまで広まったという九州の中でも、江戸幕府の直轄の天領で、西国筋郡代の役所が置かれた日田は、「山あい」に、思いがけない都ありといわれるほど繁栄した。当時の豪商たちが子女に買ひ揃えたきらびやかなひな飾りが、多数現存している。



■江戸、明治、大正時代の建築が多数残り、重要伝統的建造物群保存地区に指定されている豆田町。写真は天保年間建築の長屋がある魚町通り。■「草野本家」は江戸時代に金口ウを製造販売していた豪商。入館料 大人550円、中高生250円、0973(2)4110 ■「日本丸館」の首飾。木造四層三階建ての資料館は国指定有形文化財。入館料350円、小・中高生250円、0973(2)31610



■「天領日田」を併設する「日田醤油」のしょうゆソフト(300円)、しょうゆやパニオのほどうまい餅や、豆田町を歩いていると体が温まるのが、秋も人気が高い。0973(2)2466

日田で往時の姿を残す豆田町に、一年を通してひな人形を展示している場所があると聞いて訪ねた。味噌・醤油醸造元「日田醤油」の店内奥に設けられた「天領日田」は、入口からは想像がつかないほど奥深く、10の部屋に大小さまざまな約3,800体のおひなさまを展示している。中でも、「享保」と呼ばれる貴重な江戸時代のひな人形が並ぶさまは圧巻だ。細面に切れ長の目しなやかで表情のある美しい指先が印象的だった。

である家屋敷とともに、ひなまつりの期間中見逃せないもの。また、安政2年(1855年)創業の薬屋「岩尾薬舖」の資料館「日本丸館」には、珍しい白髪のおひなさまがいる。長寿のお祝いに作られた「百歳餅」で夫婦ともに白髪になるまで元気で仲良く、という願いが込められているそうだ。

日田のひなまつりは、江戸時代に財をなした、「草野本家」から始まったという。御簾豪華なひな人形は、国指定の重要文化財



豆田町を気に入り関西から移住した日田ご当地コンダクターの藤原さん。ひなまつりの各会場についてや、移住者だからこそ気付く町の魅力も教えてくれる。ガイドツアー(有料)の詳細は下記まで。

日田市観光協会
0973(2)21036